

イデックスオイルレポート ~For a week~

株式会社新出光

【NY原油 概況】

●26日のWTI原油は、前日比0.74ドル高の65.72ドルとなった。
ロシア南部アフィプスキー製油所で26日、ドローンの破片が設備に落下し火災が発生した。情報筋によれば、一次精製装置が損傷して稼働を停止したという。同製油所は8月末にもウクライナのドローン攻撃を受け、9月中旬に再稼働していた。一連の報道を受け、ロシア産石油の供給混乱をめぐる警戒感が高まった。

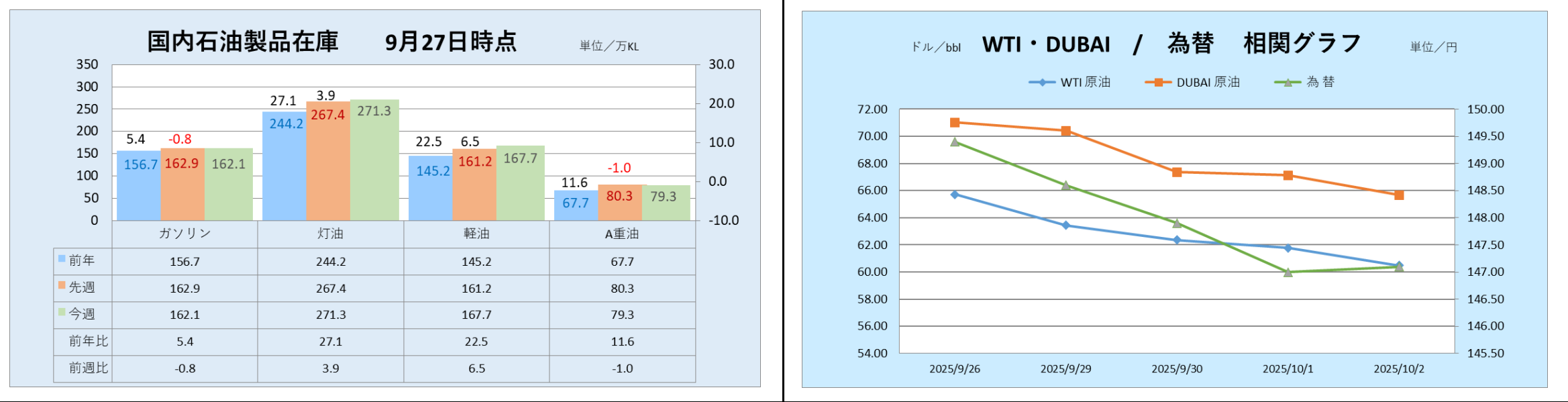
●29日のWTI原油は、前日比2.27ドル安の63.45ドルとなった。
石油輸出国機構(OPEC)とロシアなど非加盟の産油国で構成する「OPECプラス」の有志8カ国は、10月5日のオンライン会合で11月の生産方針を決める。ロイター通信が関係者の話として報じたところによると、石油価格の上昇を受け市場シェア回復を狙う動きが強まり、少なくとも前月から日量13万7000バレル増やす公算が大きいという。

●30日のWTI原油は、前日比1.08ドル安の62.37ドルとなった。
石油輸出国機構(OPEC)とロシアなど非加盟の産油国で構成する「OPECプラス」の有志8カ国は、10月5日のオンライン会合で11月の生産方針を決める。ロイター通信は、関係者の話として、10月と同じペースで11月も引き続き増産を行う見通しだと報じた。

●1日のWTI原油は、前日比0.59ドル安の61.78ドルとなった。
米政府機関の一部閉鎖を背景に、世界経済に関する懸念が強まった。また、石油輸出国機構(OPEC)とロシアなどの非加盟産油国で構成する「OPECプラス」が来月増産を加速する意向にあり、供給が増加するとの観測がトレーダーの間に広がった。

●2日のWTI原油は、前日比1.23ドル安の60.48ドルとなりました。石油輸出国機構(OPEC)加盟国とロシアなど非加盟産油国で構成する「OPECプラス」の有志8カ国が5日開催の会合で、11月の増産加速を決定する可能性があるとの報道が引き続き原油の重しとなった。

10月3日	12:00現在	WTI原油	60.75ドル	為替 1ドル	148.40円
-------	---------	-------	---------	--------	---------



【次回価格変動予想】

ガソリン	➡	-4.0 ~ -3.5
灯油	➡	-4.0 ~ -3.5
軽油	➡	-4.0 ~ -3.5
A重油	➡	-4.0 ~ -3.5
LSA	➡	-4.0 ~ -3.5

※原油コスト「-4円~-3.5円」
※補助金(ガソリン・軽油)「10.0円」前週比±0円
※現時点での予測です。

【市況総括】

《今週》今週の元売り仕切り改定は、3社ともに原油コストは「+1.5円」、補助金は、「±0円」、都合「全油種 +1.5円」の改定となった。資源エネルギー庁の公表する全国レギュラーガソリンの29日時点の小売価格平均は175.2円となっている。

《来週》次回の元売り改定は、原油コストは「-4.0円~-3.5円」、補助金は「±0円」で、都合「-4.0円~-3.5円」の改定予測となっている。

【次世代エネ コラム】 < 再エネ、発電コスト競争力増す AIや規模拡大で効率化商品 >

AI活用や規模拡大により陸上風力や太陽光の発電コストは化石燃料より大幅に低下し、競争力で優位に立っている。国際再生可能エネルギー機関(IRENA)によると、2010年比で陸上風力は7割、太陽光は9割コストが低下し、24年にはそれぞれ化石燃料より53%、41%安価になった。しかし、物価高や政策変更による強い逆風も吹いている。特に洋上風力は依然として割高で、建設・運用コストの高さから事業環境が悪化。米国を中心にプロジェクトの頓挫が相次ぎ、三菱商事も国内事業から撤退、業界を代表するデンマークのオーステッドも格下げされるなど苦境に立たされている。

太陽光も競争力は増したものの、発電量の変動が電力価格を不安定化させる課題を抱え、今後は蓄電設備への追加投資や米国の関税政策がコスト増要因として懸念される。

国際エネルギー機関(IEA)は26年にも再エネが石炭を抜く最大の電源になると予測するが、AIデータセンターなどの需要急増の中、これらのコスト圧力を抑制できるかがその実現の鍵を握る。